

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	東京芸術大学
整理番号	B03
構 想 名	“藝大力” 創造イニシアティブ ～オンリーワンのグローバル戦略～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、芸術系分野で唯一採択された大学として、これまで培ってきた実績や特色に基づくグローバル戦略を全学的な「オール藝大」体制により展開するものであり、欧米の芸術系大学等との連携基盤を活かしながら、グローバル人材育成機能強化を総合的に推進することにより、世界の有力芸術系大学をも凌駕する国際ブランド「藝大」への飛躍を目指すものである。</p> <p>世界を代表する「国際芸術文化拠点」の形成を視野に、分野横断的・複合的な大学院の設置や新たな芸術文化価値の創造 (Integration)、海外戦略拠点整備や海外有力芸術系大学の連携等によるグローバル人材育成機能の強化 (Collaboration)、「上野の杜」に展開する各種文化芸術機関との連携強化による「国際的芸術文化都市」への発展 (Development)、藝大と上野の杜の国際プレゼンスの強化 (Branding) の4つの戦略に沿った取組を着実に実行している。特に Branding については国際交流を通じて十分な成果を挙げており、芸術文化振興・人材育成等に関わる極めて多彩な活動・プログラム等を意欲的に進めていることも高く評価出来る。</p> <p>一方で、多くの取組がいわば「点」の施策に留まっている印象を受ける。例えば、海外からの一線級アーティストユニットの招致はイベント的な招聘に留まっており、当初構想されていたような体系的・組織的な取組と呼べるまでには至っていない。今後、これらの成果を既存の教育課程に組み込む工夫や新たな教育プログラムの開設など、「面」への展開に繋がることを期待したい。</p> <p>目標の達成状況に関しては、国際化関連において、海外研修型授業「Arts Study Abroad Program」や「グローバルアート国際共同カリキュラム」による共同授業・ワークショップ等の多彩な仕掛けにより、多くの学生に海外での実質的な教育体験を積ませるなど、独自性を活かした取組を実施している点は高く評価出来る。しかし、外国語による授業科目数や外国語のみで卒業出来るコースの数等の指標については数値目標に届いておらず、更なる施策が必要であろう。</p> <p>本事業は、我が国の大学のグローバル化のモデルとして他大学を牽引していくことが期待されている。国内の芸術大学との連携を更に強化し、この分野のグローバル化推進の役割を一層充実していくことが望まれる。</p>	